

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市崇仁市富住宅崇仁南部新3棟新築工事	階数	地上6F
建設地	京都府京都市下京区東之町17番地の一部	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域, 準防火地域	平均居住人員	96 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 0.0	評価の実施日	2019年12月1日
敷地面積	1,333.41 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社内藤建築事務所 神先 誠司
建築面積	529.61 m <sup>2</sup>	確認日	2019年12月1日
延床面積	2,244.61 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社内藤建築事務所 神先 誠司



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 56%

③上記+②以外の: 53%

④上記+: 53%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア= 3.1**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5

音環境	3.0
温熱環境	3.8
光・視環境	3.2
空気質環境	3.8

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7

機能性	2.2
耐用性	3.1
対応性	3.0

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性・	3.0

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.6**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9

水資源	3.0
非再生材料の	2.9
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.6

地球温暖化	4.8
地域環境	2.8
周辺環境	3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
全住戸に南側に窓があり、自然の明るさと温かさと換気が十分にできる設計となっている 内装に地域産木材を多用している	特に無し
<b>Q1 室内環境</b> 居室内は十分な自然換気ができ、各住戸南側に窓があり、十分な採光を得ることが出来る	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 景観認定証の取得
<b>LR1 エネルギー</b> BEIm=0.68 LED照明の採用	<b>LR3 敷地外環境</b> 光害対策ガイドラインチェックリストのほとんどを満たしており、屋外広告物照明は無し
<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の高い内装材・配管材を使用している	
<b>LR2 資源・マテリアル</b> 躯体と仕上げ材が容易に分別可能である	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される